

料理の美的経験—味覚をめぐる感覚間相互作用と翻訳可能性

Jean Lin

文学研究科言語文化学専攻

1. 目的

本発表は、料理を味わう経験を感覚間相互作用（クロスモーダル）と翻訳可能性の視点から分析することで、美的経験のメカニズム—すなわち感覚や言語、文脈の交差によって「美しさ」や「味わい」が成立する過程—を現代の文化的・社会的文脈において再構築することを目指す。特に、味覚という感覚を通して、美的経験がどのように多感覚的・言語的・文化的に構成されるのかを明らかにし、従来の視覚・聴覚中心の美学的枠組みを再考することを目的とする。

2. 味覚における感覚間相互作用

味覚は、視覚・嗅覚・触覚・聴覚といった他の感覚と分離して成立することは稀であり、むしろ多感覚的な経験として構築される。たとえば料理の「美味しさ」は、味そのものだけでなく、器の質感、照明、音、香り、さらには社会的文脈や記憶といった要素と密接に結びついている。この結びつきの過程において、異なる感覚が互いの知覚を変化させる「感覚間相互作用」が生じる。本研究ではまず、こうした多感覚的経験の複層性を手がかりに、味覚がどのように他感覚を媒介して美的経験を形成するかを考察する。

3. 味覚と言語の距離と翻訳可能性

味覚は他感覚だけでなく、言語により形成される外付けの文脈にも大きく影響される。したがって次は、味覚経験の言語との関係に焦点を当てる。第一に、味覚は視覚や聴覚に比べて言語への距離が相対的に遠い感覚である。視覚には「赤い」「丸い」「明るい」など直接的な形容詞があるのに対し、味覚は「甘い」「しょっぱい」といった五味を超えると抽象的表現に依存する傾向が強い。たとえばコーヒーやワインにおける「上品な」「まろやかな」「力強い」といった語は、具体的指示対象を持たず、文化的・感覚的経験に根ざした比喻として機能している。

第二に、味覚表現の翻訳にも独自の問題がある。日本語の「うまみ」「さっぱり」は英語の“savory”や“refreshing”に単純対応せず、味覚経験には翻訳可能性と不可能性が共存する。さらに日本語では、感覚の言語化の困難さをオノマトペによって補うという、言語と感覚の距離を埋める独自の方法がある。本研究はこのような「感覚と言語の距離」および「翻訳のずれ」に注目し、味覚の美的経験の特殊性を明らかにするとともに、言語が美的経験を形づくるメカニズムを他の感覚と比較しながら明らかにする。

4. 研究方法

料理批評、食の描写、レストランメニューなどの言語資料における味覚表現を収集・比較し、他感覚への比喩的転用（例：「とろける」「軽やか」「キレのある」など）を分析する。これを視覚芸術作品の批評言語などと比較することにより、味覚経験がいかに多感覚的であり、かつ文化的・言語的に媒介されているかを明らかにする。加えて、複数の言語における味覚表現を比較し、それにより文化ごとに異なる味覚経験が生じる可能性について検討する。

5. 美学的・文化的意義

本研究の美学的意義は、味覚を通じて近代美学の枠組みを再考する点にある。西洋美学は伝統的に視覚・聴覚といった「高級感覚」を中心に構築されてきたが、味覚・嗅覚・触覚など「低級感覚」は肉体的欲求に結びつくものとして排除されてきた。本発表は「低級感覚」の一つである味覚を分析対象とし、その言語との関係を他感覚と比較することで、伝統的な感覚の階層概念を現代的文脈において再検討する試みである。

さらに文化・社会学的意義として、本研究は味覚を文化翻訳の問題として位置づけ、文化相対性や文脈依存性といった課題を扱う。異文化同士の接点が増え続ける昨今において、文化ごとの相対性を認識する姿勢や、その過程で文化ごとの文脈を言語化して翻訳することはより必要になってくる。また、言語によって作り出した文脈（コンセプトやストーリー）により作品や商品に付加価値を生じさせる手法が、アート制作やマーケティングにおいて常套手段となっている今日において、文脈に依存して価値が生じる仕組みを把握することも重要である。

6. AI 時代への展開と結論

最後に、本テーマを AI 時代の美的経験についての考察にも接続する。生成 AI は言語指示をもとに視覚・聴覚的アウトプットを生み出す技術は発展しているが、味覚・嗅覚・触覚を再現することは依然として困難である。この差異は、伝統的な「感覚の階級」が AI 時代にも反復されていることを示す。一方で、本発表で言及したように、言語と低級感覚、そして低級感覚と高級感覚との翻訳可能性の差異について明らかにすれば、言語を媒介して人間の感覚に間接的にアクセスする AI が低級感覚にアクセスする糸口となりうる。したがって、味覚と他感覚や言語との関係を美学的に検討することは、今後の AI 技術の発展とともに生じうる新たな美的経験を考察する理論的基盤となる。